観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和７年７月３１日

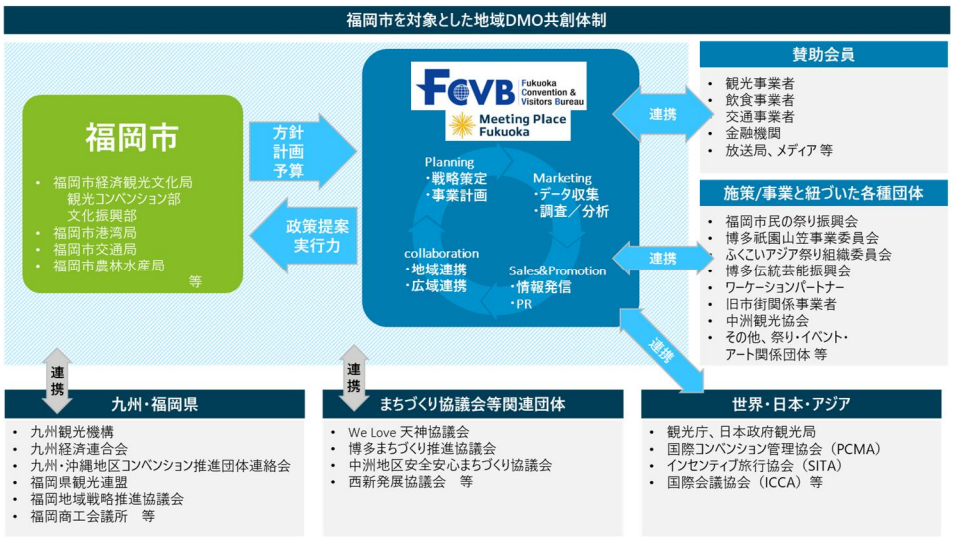
１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ	
観光地域づくり法人の名称	（公財）福岡観光コンベンションビューロー	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	福岡市	
所在地	福岡県福岡市	
設立時期	昭和 62 年９月１日　財団法人福岡コンベンションビューロー設立 平成６年　財団法人福岡コンベンションビューローと社団法人福岡市観光協会が合併し、財団法人福岡観光コンベンションビューローとなる 平成 24 年４月１日　公益財団法人福岡観光コンベンションビューローに移行	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	36 人【常勤 32 人（正職員 15 人・出向等 13 人・その他 5 人)、非常勤 3 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 谷川　浩道 （出身組織名） 福岡商工会議所	（公財）福岡観光コンベンションビューロー会長 地域の様々なパイプ役として、在任期間中、様々な取組みで成果を挙げている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 梶原　崇弘「専従」 （出身組織名） （株）リーゴ	旅行会社（(株）JTB）等の経験を経て、令和５年７月当財団出向 広報・マーケティング課長 着任以来、地域 DMO への移行準備、デジタルマーケティングを担当 民間企業において、DRM データに基づいた分析、顧客管理 WEB サイトでの集客戦略支援などの観光地域マーケティングについて知見と能力を持つ。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 鳥越　未来子「専従」 （出身組織名） 福岡市役所	平成 10 年福岡市役所採用 令和５年４月当財団出向 着任以来、財務を含む財団の総合調整を担当。 持続可能な運営のため、運営収支や財源確保に関する検討を行う。

様式１

連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	〈連携先〉 福岡市 〈担当部署〉 ● 経済観光文化局観光コンベンション部、文化振興部 ● 港湾局 ● 交通局 ● 農林水産局 〈役割〉 ● 関係省庁や自治体間の連携促進 ● 観光振興を取り巻く制度構築・施設整備・資源保護等
連携する事業者名及び役割	【地域が「売り」とする観光資源関係者との連携】 ● 賛助会員（幅広い分野の事業者に参画いただき、多様なプレイヤーが集うプラットフォーム） 〈役割〉地域企業連携・コンテンツ開発・プロモーションなど ● 福岡商工会議所 〈役割〉商工業振興等、地域経済全体を見据えた観光振興に向けた連携強化 ● 福岡地域戦略推進協議会 〈役割〉地域企業連携等、幅広い業界団体・事業者との連携強化 【宿泊事業者との連携】 ● 福岡市ホテル旅館協会 【交通関連事業者との連携】 ● 福岡国際空港株式会社 ● 西日本鉄道株式会社 ● 九州旅客鉄道株式会社 【みやげ・小売店との連携】 ● 福岡地所株式会社 ● 福岡県観光土産品協会 ● 福岡県商工会連合会
官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】② 当財団を地域 DMO として位置づけ、**当財団を中心とした官民・産業・地域との持続可能な連携**を目指す 【官民の連携】 ● 福岡市が定める「福岡市総合計画」及び「観光・MICE 推進プログラム」等の政策目標の共有及び達成に向けた事業実施 【産業間の連携】 ● 賛助会員をはじめとした地域事業者との協働による事業計画策定及び事業実施 ● 福岡商工会議所及び福岡地域戦略推進協議会を通じた幅広い事業者・業界団体との連携強化 【地域との連携】 ● 地域イベントの支援及びまちづくり協議会等の地域団体との連携を通じた観光振興に対する市民理解の醸成及び受入環境整備 【合意形成の仕組み】 なお、合意形成にあたっては、当財団の意思決定機関である理事会において実施する行政・市民との意見交換や、賛助会員で構成するパートナーズワーキンググループを通じた事業者・関連団体の情報共有を反映することとする。

様式１

	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	地域イベントの支援や市民ボランティア等の育成を通じた地域社会とのコミュニケーションを強化し、観光地域づくりに関する意識啓発・参加促進を実施する。また、観光地域づくりへの理解促進、当財団の取組みや目的共有のための市民向けセミナー等を実施することで、地域住民との連携を強化する。 ● 観光案内ボランティアや、ウェルカムサポーターを通じた市民の観光への参画推進、おもてなしの実施 ● 市民を対象とした地域観光やツアー等の開催 ● 博多どんたく港まつり、博多祇園山笠などの市民が参画するまつりや、博多仁和加などの伝統文化の支援 ● 区役所を通じた地域との連携 ● 市民向けセミナー等の開催による観光地域づくりに関する事業実施状況の報告及び意見の吸い上げ
法人のこれまでの活動実績	**【活動の概要】** 事業：情報発信・プロモーション 実施概要：情報発信・プロモーションにあたっては、行政、事業者及び他 DMO と連携しながら、効率的かつ効果的に実施している。 ● オフィシャルメディアの運営 観光情報サイト「よかなび」や外国人観光客向けグローバルサイト「Fukuoka City Official Tourist Guide」、各種 SNS での観光スポットやイベント情報の発信 ワーケーション、修学旅行など特設サイトの運営 ● 福岡検定の実施 市民のおもてなしの心の醸成と向上 ● 海外メディア取材支援 取材誘致・受入 ● 民間事業者と連携したプロモーション ディスティネーションキャンペーンの実施 ● MICE 誘致に向けた FAM ツアーの実施 ポスト･コロナにおける誘致に向け、海外の旅行事業者等の MICE 関係者を対象にオンライン配信による視察ツアーを実施

様式１

		● 他 DMO 等と連携した商談会等への出展 市場別オンライン商談会に参加し、旅行会社と商談を実施
	受入環境の整備	**来訪者を対象としたアンケート調査結果に基づくサービスの品質管理・評価と事業者ニーズを踏まえ、受入環境の整備・向上に向けて以下の取組みを展開している。** ● 観光案内所の運営 観光案内所（天神）や「博多町家」ふるさと館での観光案内、SNS での情報発信等を実施 ● 多言語対応の観光案内の実施 ● 観光事業者向け研修 地域観光資源・イベント等に関する講義を実施 ● ワーケーションに係る受入れ環境整備の促進 専用アプリ「ワフパス」による特典提供やワーケーションパートナー企業との連携を促進 ● MICE 受入環境の充実 Meeting Place Fukuoka によるワンストップ支援（助成金・手配など）や、コンベンションパス実証、観光庁「海外からのインセンティブ旅行誘致に関するコンベンションビューロー等機能高度化事業」の実施
	観光資源の磨き上げ	**来訪者を対象としたアンケート調査結果、事業者ニーズ及び市民意見に応じて、観光資源の磨き上げのための以下の取組みを展開している。** ● まつりの振興 運営や継続的な振興のための支援 ● まち歩きの実施・ルート開発 歴史資源などの活用に加え、新たなスポットの開拓など多様なニーズに応えるまち歩きコースの開発を企画・実施 ● 体験型コンテンツの造成・地域資源の活用 福岡城での御城印の販売及び志賀島・北崎エリアでのルーラルウォーク等、地域・事業者と連携した体験型観光コンテンツの販売 ● MICE 向けサステナブルコンテンツの充実化 SDGs に関する体験コンテンツの開発を企画・実施 ● 賛助会員と協力したコンテンツ造成（福岡城桜まつり） ● 修学旅行の誘致 市内に宿泊する修学旅行やバスツアーへの支援・情報発信を実施 ● エリア観光の推進（博多旧市街プロジェクトや Fukuoka East&West Coast プロジェクト など）

様式１

【定量的な評価】※暦年の値を記載

項目	数値（2024 年度）	評価
① 旅行消費額 ※	※調整中	2024 年度実績については調整中
② 延べ宿泊者数 ※	17,609 千人	2025 年度に 14,000 千人を目指すこととしており、早期に達成できた。 引き続き、誘客促進に取り組むとともに、併せて市民満足度の向上に繋がる取組みを推進していく必要がある。
③ 来訪者満足度	89.5%	2025 年度に 93%を目指すこととしており、引き続き目標達成に取り組む。 引き続き観光満足度の向上に努め、維持・向上を図る。
④ リピーター率	78.1%	2025 年度に 79.0%を目指すこととしており、引き続き目標達成に取り組む。 引き続き、観光満足度の向上に伴うリピーターの増加に努める。
⑤ ＷＥＢサイトのアクセス状況	8,343,796 件	2025 年度に 1,4000,000 を目指すこととしており、引き続き、情報発信に努める。
⑥【市民満足度】 市民が観光客を受け入れることへの意向（来てほしい割合）	55.7%	2025 年度に 80%を目指すこととしているが、数値が低下している。 今後も観光客が増加していくことが見込まれるため、市民満足度の向上を喫緊の課題と捉え、取組みを進める。

実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

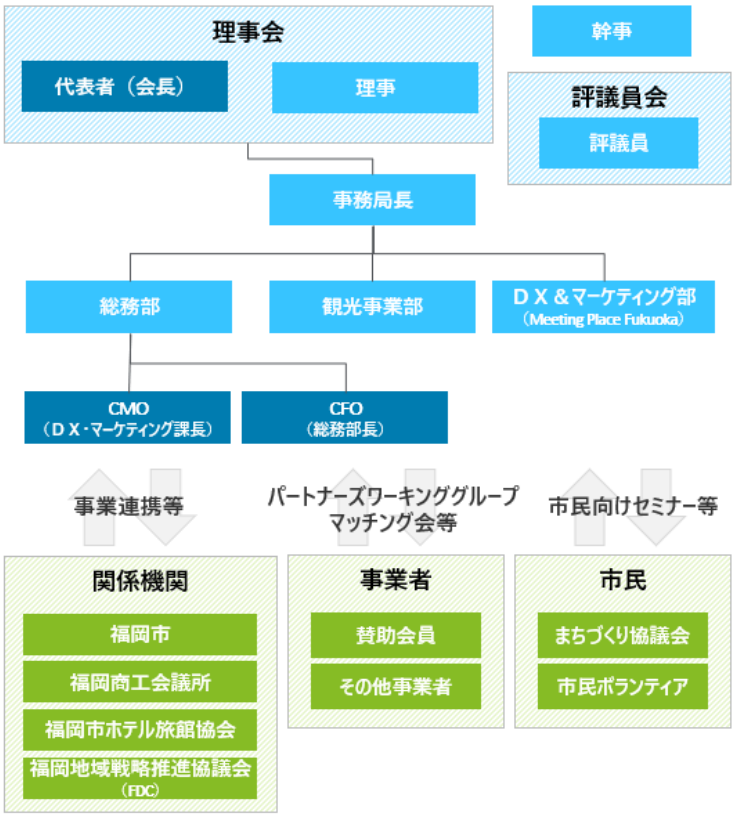
【実施体制の概要】

当財団が、連携機関、関係事業者及び市民との協議の場を持ち、情報共有・意見交換を実施する。そこで得た情報・意見をもとに当財団理事会において事業計画の策定等の意思決定をし、当財団を中心とした地域一体推進体制の構築を図る。

特に、パートナーズワーキンググループの導入による賛助会員との連携強化と、市民向けセミナー等の開催による市民の要望・問題意識の吸い上げと理解促進・観光への参加意欲の醸成を図る。

様式１

【実施体制図】


理事会
代表者（会長）
理事
幹事
評議員会
評議員
事務局長
総務部
観光事業部
ＤＸ＆マーケティング部
（Meeting Place Fukuoka）
CMO
（ＤＸ・マーケティング課長）
CFO
（総務部長）
事業連携等
パートナーズワーキンググループ
マッチング会等
市民向けセミナー等
関係機関
福岡市
福岡商工会議所
福岡市ホテル旅館協会
福岡地域戦略推進協議会
（FDC）
事業者
賛助会員
その他事業者
市民
まちづくり協議会
市民ボランティア

様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

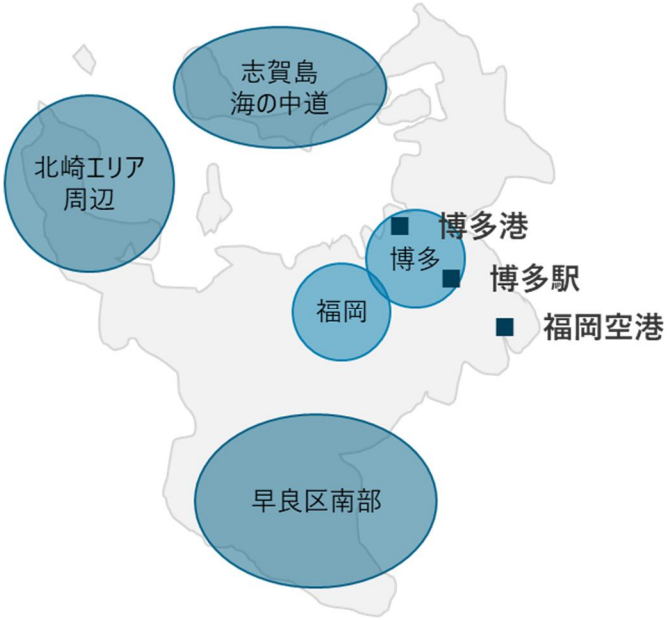
【区域の範囲が分かる図表を挿入】

対象区域：福岡市全域

■　人口　1,612,392 人（５年間の人口増減率：4.8%）

■　面積　343.46㎢

（出典：令和２年国勢調査都道府県・市区町村別の主な結果より）



【区域設定の考え方】

以下のとおり、歴史・文化、自然環境および都市基盤の３つの観点から、福岡市域をもって実施することで、区域としての一体性を確保した観光地域づくりが可能であり、適切であると考える。

〈歴史・文化〉

福岡市は、古代には鴻臚館が設置され大陸との外交拠点であったことに加えて、中世に形成された自治都市・商業都市としての「博多」と、近世に形成された城下町としての「福岡」が、近代になって「福岡市」として一つの都市になった歴史を有する。こうした都市形成の歴史から、市中心部には多くの歴史的・文化的観光資源が集積しており、伝統文化を体感することが可能である。

〈自然環境〉

福岡市は、九州地方の行政・経済の中心都市でありながら、北は海の中道・志賀島、西は北崎エリア、南は金武・油山と多様な自然環境を有し、都市と自然が近接した環境を有している。海水浴やキャンプ、登山等多様な自然体験が可能である。

〈都市基盤〉

福岡市は、九州の玄関口となる博多港、博多駅および福岡空港等の交通結節点を有しており、国内外からの多くの来訪客が往来している。また、大型施設及び多数の宿泊施設等の都市機能が集積しており、その利便性の高さから、福岡市を拠点に滞在することが可能である。

【対象区域に対する当財団の強み】

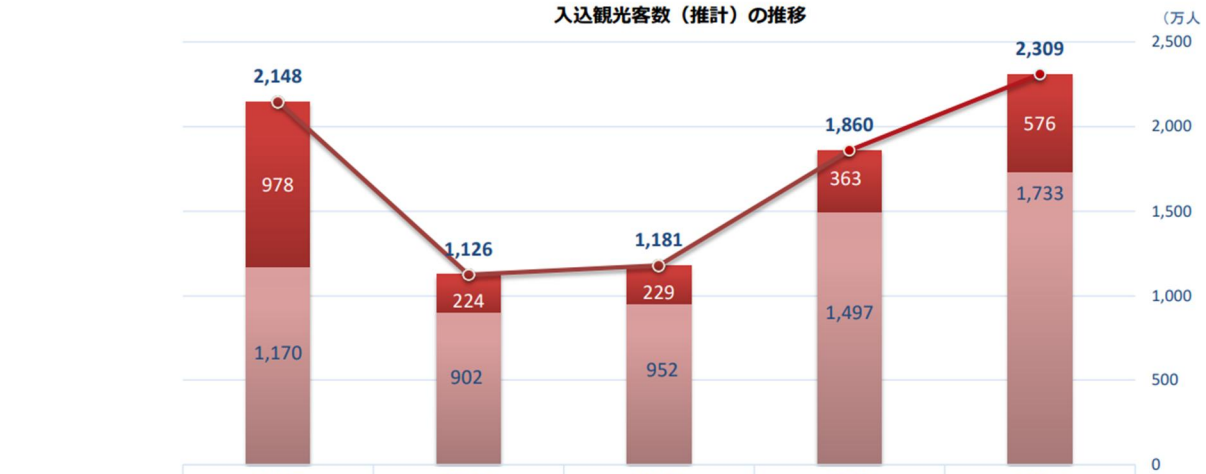
当財団は、福岡市及び周辺地域との緊密な連携のもとに、観光客の誘致、コンベンションの誘致等を行うことにより、福岡市における観光及びコンベンションの振興を図り、もって国際、国内観光の振興による人的交流の促進並びに地域経済の活性化及び文化の向上に寄与することを目的とし、これまで活動してきた。その中で培ってきたステークホルダーとの連携のうえに、DMO としての地域一体の取組みを推進していく。

様式１

【観光客の実態等】

＜入込観光客数＞

2023 年の入込観光客数（推計）は 2,309 万人、前年比 124%となるなど過去最高を記録した。



	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
宿泊観光客	978	224	229	363	576
日帰り観光客	1,170	902	952	1,497	1,733
入込観光客数	2,148	1,126	1,181	1,860	2,309

（宿泊観光客＋日帰り観光客）

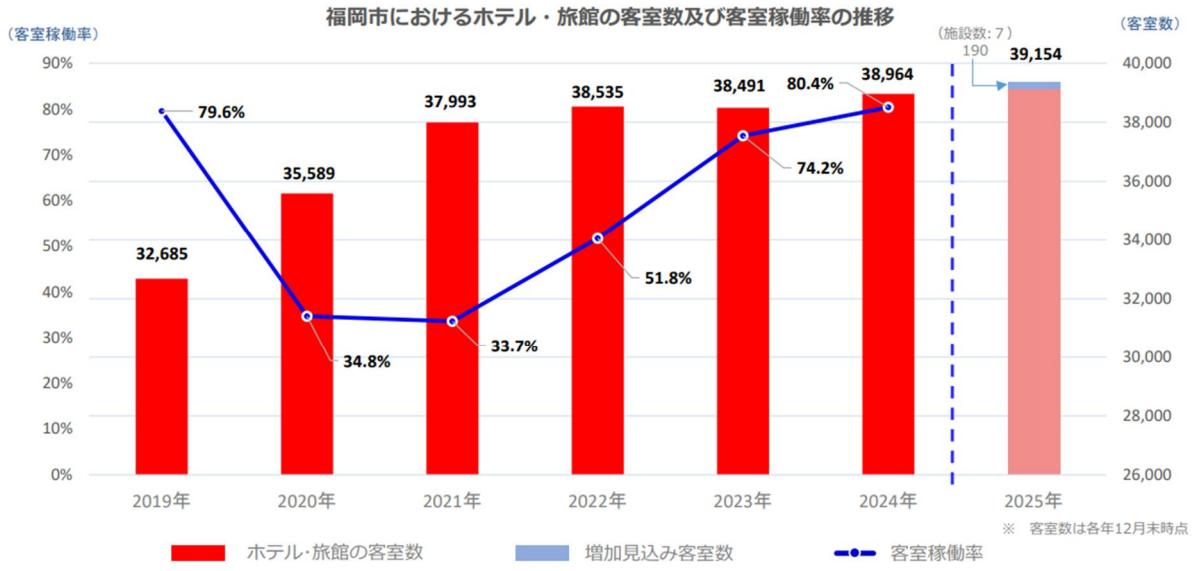
※2020年から宿泊観光客の推計方法を変更

＜延べ宿泊者数＞

2024 年の延べ宿泊者数（推計）は、1,761 万人となっている。

ホテル・旅館の客室数は、38,964 室（2024 年 12 月末現在）となっており、今後、7 施設 190 室増加する見込みである。

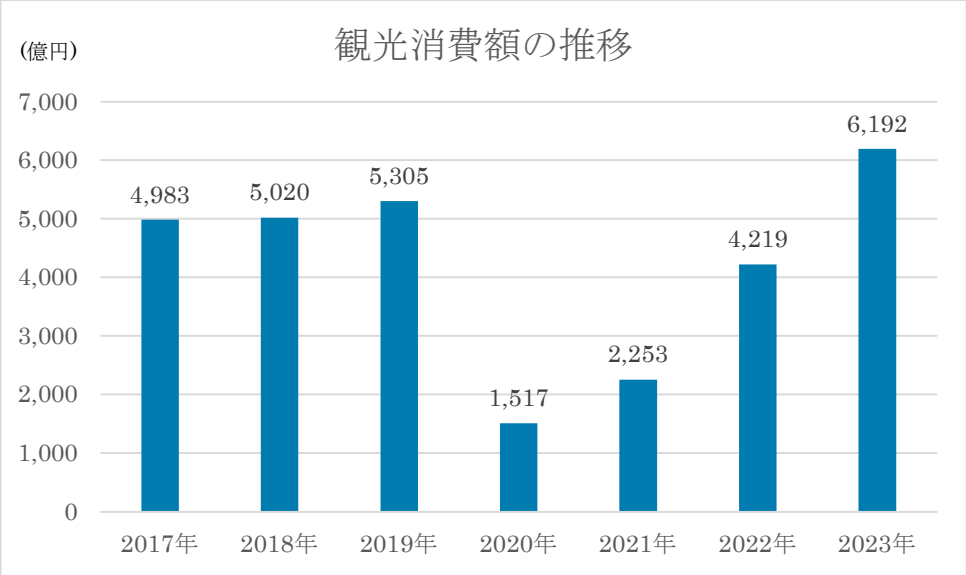
客室稼働率は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により 2020 年以降大きく減少していたが、2024 年はコロナ前を上回る水準となった。



資料（客室稼働率）：観光庁「宿泊旅行統計調査」
資料（客 室 数）：「福岡市内旅館施設一覧表」詳細は次頁
※増加見込みについては、あくまでも計画段階のものであり、増減することがありうる。（経済観光文化局調べ）
資料（延べ宿泊者数）：「福岡市税務統計」の宿泊数を元に算出。

＜消費額＞

2023 年の観光消費額（推計）は 6,192 億円、前年比 146.7%となるなど、過去最高を記録した。



事業者への調査及び国内外の観光客に対するアンケート調査による独自推計

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

	概要	活用の方向性
歴史・文化	中世に形成された自治都市・商業都市としての「博多」と、近世に形成された城下町としての「福岡」、それぞれの特徴的な歴史的・文化的観光資源	• 福岡ならではの歴史・文化体験の提供 • 伝統工芸及び伝統芸能等を活用した高付加価値化
自然環境	海の中道・志賀島から、北崎エリア、早良区南部に至る多様な自然環境	• 海水浴やキャンプ、登山等様々な自然体験 • ワーケーションやリトリート等、長期滞在促進
都市機能	福岡空港、博多駅、博多港等の主要交通機関の存在と、大型施設及び多数の宿泊施設の集積による利便性の高さ	• MICEの振興 • コンサートやスポーツ等アミューズメントの充実 • ノマドの受入れ体制の強化 • 交通拠点としての広域連携促進

区分	資源	概要
歴史・文化	福岡アジア美術館	アジアの近現代美術作品を系統的に収集し展示する世界唯一の美術館
	博多旧市街	博多の伝統文化と都会的なオフィスビルや商業施設が調和するエリア
	福岡市博物館	国宝「金印」をはじめ、福岡・博多の歴史・文化に関して展示する博物館
	福岡城・鴻臚館	江戸時代に築かれた福岡藩黒田氏の拠点と、平安時代の外交施設
自然環境	北崎エリア	二見ヶ浦を中心とする魅力的な海辺空間
	志賀島・海の中道エリア	マリンワールドや海の中道海浜公園を中心としたリゾート地域
	早良区南部	背振山地から続く金武や油山市民の森キャンプ場を中心としたエリア
イベント	博多どんたく	約840年の歴史を持つ伝統的な行事 国内外から200万人以上の人出で賑わう日本有数のお祭り老若男女が思い思いの仮装でシャモジを叩いて町を練り歩き、踊りを披露する
	博多祇園山笠	鎌倉時代から続く伝統的なお祭り 重要無形民俗文化財に指定されている 豪華絢爛に装飾された山笠が街を練り歩く
	放生会	仏教儀礼に由来し、筥崎宮の1100年以上続く神事を期限とするお祭り 約1kmの参道の両脇には500軒を超える露店が立ち並ぶ

区分	資源	概要
都市機能	博多港	国内外を結ぶ多数の定期航路のほかクルーズ船が就航する
	博多駅	山陽/九州新幹線ほか多数の在来線・私鉄が乗り入れる九州の玄関口
	福岡空港	国内路線28路線、国際路線23路線（10か国・地域・23都市）が就航し、旅客数は国内4番目の空港
	マリンメッセ福岡	多数のイベントが開催される九州最大規模のアリーナ
	福岡PayPayドーム	福岡ソフトバンクホークスの本拠地 コンサート等のイベントも開催される多目的ドーム球場
	ベスト電器スタジアム	アビスパ福岡（サッカー）、九州電力キューデンヴォルティクス（ラグビー）のホームスタジアム
	照葉積水ハウスアリーナ	ライジングゼファーフクオカ（バスケットボール）のホームアリーナ
	キャナルシティ博多	劇場・ホテルを有する複合商業施設
	アイランドアイ	MICE施設・ホテルを有する複合商業施設
	ららぽーと福岡	約220店舗を有する九州初のららぽーと
その他	食文化	ラーメンや明太子等の特徴的なご当地グルメと屋台での食体験
	住環境	全国で人口増加率1位となる快適な住環境

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

本区域では、607 のホテル・旅館があり、その客室数は 38,964 室、定員数は 79,166 人となっている（福岡市観光統計、2024 年 12 月末現在）。

また、区域内には、ビジネスホテルのほか、リゾートホテルやラグジュアリーホテルも所在しており、地域として、多様な客層・滞在スタイルに応えられる環境となっている。

宿泊施設数等（各年12月末時点）

（単位：軒、室、人）

区分	ホテル・旅館			簡易宿所			合計		
	数(軒)	客室数	定員数	数(軒)	客室数	定員数	数(軒)	客室数	定員数
2019年	522	32,685	60,620	234	1,188	7,820	756	33,873	68,440
2020年	577	35,589	69,937	176	851	6,550	753	36,440	76,487
2021年	549	37,993	75,702	106	622	5,227	655	38,615	80,929
2022年	513	38,535	77,804	95	581	4,926	608	39,116	82,730
2023年	540	38,491	78,027	94	562	4,937	634	39,053	82,964
2024年	607	38,964	79,166	96	565	4,871	703	39,529	84,037

※福岡市が営業を許可している宿泊施設のうち、旅館業法の分類によるホテル・旅館・簡易宿所を集計したもの（資料：「福岡市内旅館施設一覧表」）
なお、下宿営業、社員寮や保養所、風俗関連営業を除いた施設を対象。ただし、社員寮・保養所のうち一般客受入のある施設は、ホテル・旅館に含めている。

資料：「福岡市旅館業営業許可施設一覧」

【参考】
住宅宿泊事業法に基づく届出数　775 件
（2024年12月末時点）

【利便性：区域までの交通、域内交通】

本区域までの交通は、以下のとおり陸路・海路・空路いずれも利便性が高い。

- 福岡空港…多数の国内線・国際線が就航
- 博多駅…山陽新幹線・九州新幹線のほか多数の在来線・私鉄が乗り入れる
- 博多港…国内外を結ぶ定期航路はもとよりクルーズ船も就航・停泊する

● その他、九州自動車道・福岡都市高速等

域内の交通は、福岡市地下鉄および路線バスがカバーしており、域内の交通についても利便性が高く、域内の周遊を可能としている。

【外国人観光客への対応】

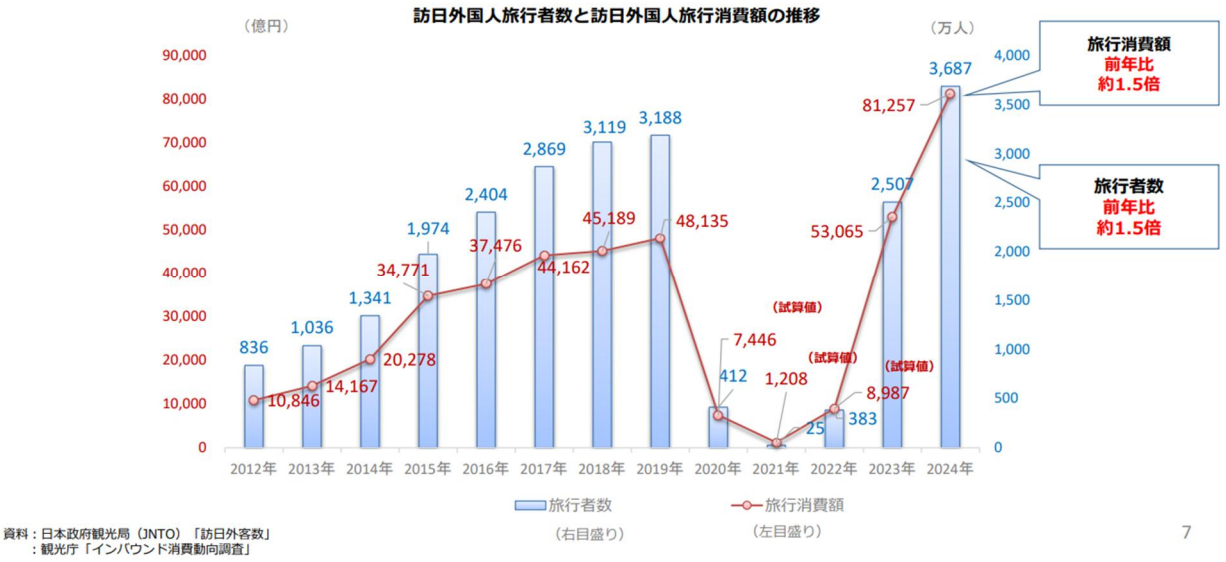
〈概況〉

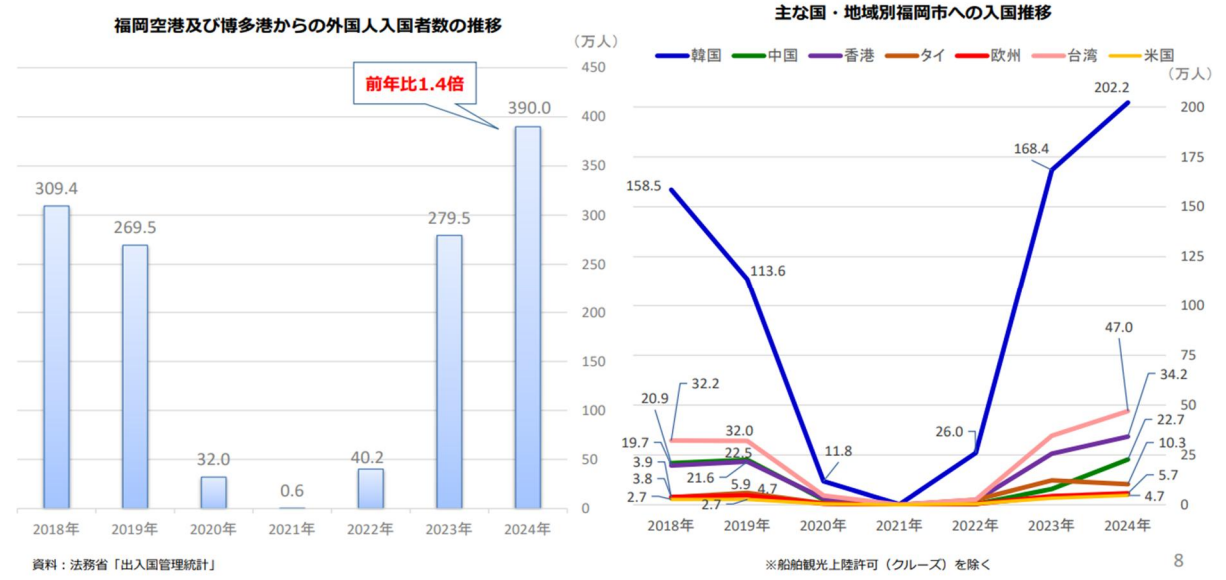
2024 年の訪日外国人旅行者数は約 3,687 万人であり、そのうち福岡市における外国人入国者数は約 390.0 万人である。2023 年と比較して、旅行者数は前年比約 1.5 倍、入国者数も前年比約 1.4 倍とコロナ前の水準を上回っている。

主な国・地域別の入国者数をみると、韓国が 202.2 万人と全体の約 5 割を占め、台湾や香港、タイ等、アジア諸国からの入国者が多い。

〈取組み〉

- 多言語対応ツール（外国人観光客向けグローバルサイト「Fukuoka City Official Tourist Guide」、観光ガイドブック、MAP）
- 観光案内所所（天神・博多）の運営
- ウェルカムサポーターによる観光案内　等





様式１

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
旅行消費額	観光の質の向上を図るにあたって、来訪者の消費活動の動向を分析し、消費単価向上に繋げるため	事業者への調査及び国内の観光客に対するアンケート調査（福岡市観光客動態調査）を基に毎年算出（※アンケート調査の概要は p18 を参照）国外からの観光客については、令和６年度から実施
延べ宿泊者数	宿泊者数の推移を把握するため	観光庁宿泊旅行統計調査を基に推計
来訪者満足度	来訪者の満足（不満足）に繋がっている要因を分析し、戦略立案に繋げるため	福岡市観光統計の作成にあたって、国内・国外の観光客に対してするアンケート調査（福岡市観光客動態調査）を毎年実施。国外からの観光客については、令和６年度から実施
リピーター率	安定かつ継続的な来訪者の確保に向けて、観光客の満足度・サービス水準の高さに関連するリピーター顧客の状況を把握するため	国内の観光客に対するアンケート調査（福岡市観光客動態調査）を毎年実施。国外からの観光客については、令和６年度から実施
WEB サイトアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため	当財団において集計
【住民満足度】市民が観光客を受け入れることへの意向（来てほしい割合）	観光振興施策に対する市民の理解度や観光客の受入れに係る参加意欲を把握するため	市民に対するアンケート調査（観光市民意識調査）を令和４年度から実施
福岡市を含む九州の２地域以上で宿泊するインバウンド客の割合	福岡市を拠点とした九州における周遊観光の実態を把握し、周遊促進に向けた戦略立案に繋げるため	別途、アンケート調査を令和６年度から実施
欧米豪からの入込観光客数	国際情勢によらない観光産業の維持振興等レジリエンスの強化にあたって、欧米豪からの入込観光客数を把握するため	出入国管理統計より以下国・地域の数値を合算 ※ヨーロッパ＋米国＋オーストラリア
平均泊数	滞在期間に関する実態を把握し、観光資源の磨き上げや滞在環境の向上など長期滞在促進向けた戦略立案に繋げるため	観光庁宿泊統計をもとに当財団にて算出
国際会議開催件数	MICE 振興による観光関連産業の活性化に向けた取組状況を把握するため	JNTO 国際会議統計を参照
賛助会員数	当財団の DMO としての活動の広がり、観光地域づくり活動の展開状況を把握し、地域一体の連携体制及び取組拡大に向けた戦略立案に繋げるため	当財団において集計

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大を経て、社会情勢によって需要が急減/急増する観光産業の脆弱性が浮き彫りとなった（人流抑制に伴う需要の急減、感染収束後の観光需要の急回復と地域住民の生活への影響等）。

一方で、第３次産業が市内総生産額の約９割を占める福岡市においては、観光関連産業が大きな影響力を持つことを再認識した。

地域一体となった観光振興に係るマネジメントと、多様化する観光・MICE の在り方に対応していくためのマーケティングにより、持続可能な観光地域づくりを推進することで、福岡市の都市としての国際競争力の向上に繋げる。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** ● 博多港、博多駅、福岡空港という「海」「陸」「空」の交通機関が集積していることによる九州のゲートウェイとしての集客力 ● 歴史的交流都市としての歴史・文化資源の多様性 ● 市民の交流に対する文化的寛容さ ● 都市・自然の豊かさとコンパクトなまとまり ● 大学を中心とした学術機関が市内に集積。「科学技術・技術・自然」「芸術・文化・教育」「医学」系国際会議の開催件数が多い（全体の約 76%） ● ライオンズクラブ国際大会や G20 財務大臣・中央銀行総裁会議等の大型催事実績を有した国内有数の MICE 開催地としての高い認知度	**弱み（Weaknesses）** ● 日本全体の傾向と比較し、福岡市の外国人旅行者数の割合は東アジア（韓国・台湾）が占める割合が多く、欧米豪層の誘客割合が少ない ● アジアの玄関口としてアジアからのリピーターが多い反面、消費単価が低い傾向 ● 中長期を見据えた観光産業を支える人材確保への対応に課題がある ● 外資系企業の立地や欧米からの直行便が少ないため、企業ミーティング・インセンティブツアーを積極的に行うような欧米系企業の MICE 獲得が難しい。 ● 他のグローバル MICE 戦略都市（東京、横浜等）と比較し、環境に配慮した MICE 受入体制の構築に遅れをとっている可能性（事業者向けガイドラインの整備等）
外部環境	**機会（Opportunity）** ● 新たなテーマ・KPI を具備した観光・MICE 推進プログラムの改定及び国の観光立国推進基本計画の改定 ● 観光地や混雑回避を志向したマイクロツーリズムやノマドワーカーの台頭 ● デジタル技術を活用した観光産業の生産性向上への意識の高まり ● 都市空間のアップデート（天神ビックバン、博多コネクティッド）、福岡空港第２滑走路の併用開始等を通じた、交流機会の拡大 ● 福岡市における国際金融都市構想の推進に伴うグローバル金融企業の誘致機能の強化 ● 福岡世界水泳（2023 年）、大阪万博（2025 年）等のインバウンドの誘客機会	**脅威（Threat）** ● 観光に対する地域・住民とのコミュニケーションの不足。それらに伴う、観光推進に対する関係者間での意識の隔たり。 ● 観光需要の早期回復に伴う、混雑・マナー違反などを通じた市民生活への影響 ● 東アジアにおける国際情勢の変化による韓国・台湾・中国・香港といったインバウンド客のボリュームゾーンからの極端な入国減少 ● 世界的な SDGs に対する意識の高まりを受けた、主催者による MICE 会場・開催地への対応要求に応えられず機会を損失

	● グローバル創業・雇用創出特区としてスタートアップ企業の誘致や、福岡県の国際金融都市構想実施に伴うグローバル金融企業の誘致機能が強化	

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。〈クロス SWOT によるターゲット及び取組方針の導出〉

		内部環境	
		強み	弱み
		・九州のゲートウェイとしての集客力 ・交流都市としての歴史・文化資源と寛容な市民文化 ・都市・自然の双方の豊かさとコンパクトなまとまり	・福岡市に流入するインバウンド出発国の偏り ・消費単価向上の鈍化 ・客室数の増加を観光産業に従事する人材確保
外部環境	機会 ・福岡市 観光・MICE推進プログラムの改定/2023年 ・観光庁 観光立国推進基本計画の改定/2023年 ・世界水泳/2023年 ・第二滑走路併用開始/2024年 ・2025年 大阪万博/2025年 等	■強み・機会をかけあわせ、成果を最大化 ➢ 国内外の交通網・MICE施設をはじめとする都市機能の拡充および受入機能の強化による九州のゲートウェイ都市としての都市の進化 ➢ 充実した生活環境・滞在環境による長期滞在の促進 ➢ アジアに開かれた豊かなビジネス環境を生かした交流機会を創出し、地域のエコシステム機能を拡充	■弱みを機会を通じて、克服・強みへと昇華 ➢ 消費単価の高い出発国（欧米豪）マーケットに対するマーケティングを進化 ➢ 既存誘客コンテンツ（歴史・文化、食、自然等）の更なる磨き上げ通じて、高付加価値化を促進
	脅威 ・国際情勢の悪化を通じたインバウンド消費の低下 ・新たな感染症の拡がり ・地震・災害の影響や風評 ・誘客を通じ混雑・マナー違反等による市民生活環境の悪化 等	■脅威に対して、強みを持ってリスク低減 ➢ 市民の観光振興に対する理解を促進しつつ、市民・観光客双方のメリットに繋がる受入環境整備を促進 ➢ 従来の観光宿泊の観点のみならず、国内のワーケーション・世界のノマド需要等に着目した新たな観光ニューノーマルに向けた整備・プロモーション等の実施	■弱みを理解し、脅威の影響を低減・回避 ➢ デジタル活用を促進した観光産業の効率化と高付加価値化の促進 ➢ 環境変化に柔軟に対応できる強いレジリエンスな体制・観光地域づくりを実現

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層

平日に福岡を訪れるビジネス客・観光客

〇選定の理由

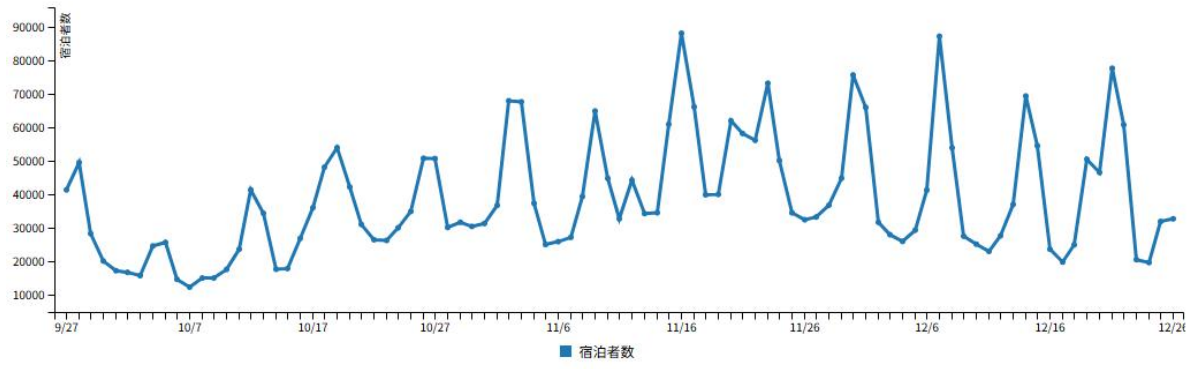
■　本区域の強み（クロス SWOT）とターゲットの親和性

本区域の強みである、九州のゲートウェイとしての知名度と集客力や、都市と自然が近接した環境、充実した生活環境・滞在環境、アジアに開かれた豊かなビジネス環境を生かし、ワーケーション・ブレジャーの促進や、ノマドワーカー等長期滞在するビジネス客・観光客の誘客強化を図る。

■　繁閑ギャップへの対応の必要性

コロナ禍において、オンラインミーティングの普及等のデジタル化が進展した結果、出張が減少しており、平日／休日の繁閑ギャップが顕著となっている（下図参照）。平日のビジネス客・観光客の誘客及び平日を含む長期滞在の促進を図ることで、繁閑ギャップに対応することが必要である。

福岡市における宿泊者数の推移（2024 年 9 月 27 日～12 月 26 日）



観光予報プラットフォームを参照

様式１

〇取組方針
■　歴史・文化や食文化、自然環境等の観光資源の磨き上げ
■　充実したビジネス環境・都市基盤を生かしたワーケーション・ブレジャー等長期滞在促進

〇第２ターゲット層
福岡への直行便がある国からの旅行者（９か国/地域）

〇選定の理由
■　本区域の強み（クロス SWOT）とターゲットの親和性
本区域の強みである、国内外への交通網の利便性の高さと、福岡空港の機能強化及び大阪万博開催等の機会を生かし、福岡空港・博多港にダイレクト路線が就航している国からの旅行者の呼び込み強化を図る。

■　誘客強化による効果への期待
福岡空港は、国内有数の国際空港として９か国・地域（韓国、中国、台湾、香港、マニラ、シンガポール、ベトナム、タイ、アメリカ）の 18 都市から毎月約 1,700～1,800 便が就航し、入国者数も毎月約 25 万人となっている。また、福岡空港は、第２滑走路の運用開始や、国際線スポットの増設等、機能強化が進められ、利便性の向上による就航便数及び入国者数のさらなる増加が見込まれることから、誘客強化を図っていく。

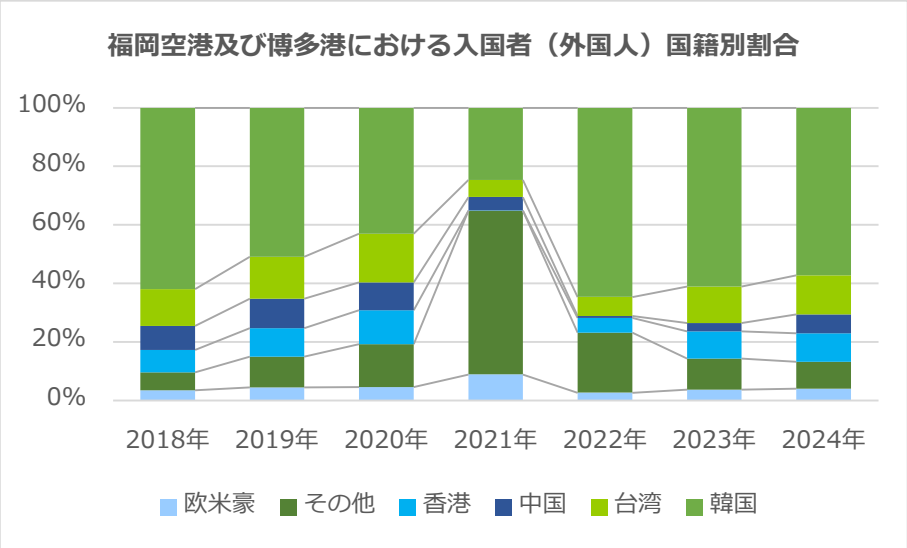
〇取組方針
■　直行便で結ばれている各都市との連携強化／PR 強化による誘客促進

〇第３ターゲット層
欧米豪を中心としたモダンラグジュアリー層

〇選定の理由
■　本区域の強みとモダンラグジュアリー層の親和性
モダンラグジュアリー層とは、富裕旅行者のうち、20～30 代のミレニアルズを中心とした文化や独自性、スタイルに重きを置く旅行者のことである。これらの志向は、本区域の強みである、交流都市としての歴史・文化資源と寛容な市民文化、独自の食文化、充実した滞在環境と親和性が高いと見込まれることから、モダンラグジュアリー層の誘客強化を図る。

■　レジリエンス強化の必要性
本区域の弱み及び脅威として、韓国、中国及び台湾等の近隣諸国からの観光客が極めて多く、国際情勢によって観光客数が大きく増減することが挙げられる（下図参照）。それらの弱み及び脅威を克服し、環境変化に柔軟に対応できる強いレジリエンスな観光地域づくりを推進する必要がある。

■　誘客強化による効果への期待
当財団の調査事業により、福岡を訪れる欧米豪観光客は、その他の地域からの観光客に対して初回訪問率が高く、来訪者への訴求が不足していることが判明している。また、欧米豪観光客は滞在期間が長く、消費額も大きい傾向が判明した。今後、長期滞在化・高付加価値化を推進する観点から、誘客強化の必要がある。



法務省「出入国管理統計表」に基づいて作成

〇取組方針

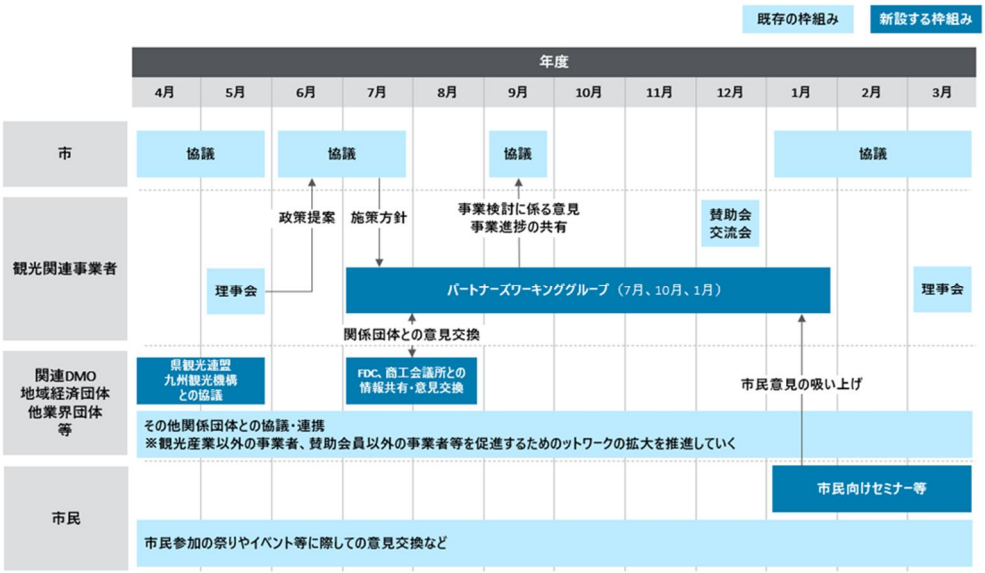
- 歴史・文化や食文化、自然環境等の観光資源の磨き上げ
- 欧米豪からの誘客強化
- 滞在環境・生活環境の向上と市民による受入環境の充実
- 福岡市を拠点とした九州周遊促進
- 「西のゴールデンルート」の構築による関西圏～広島～九州の広域周遊促進

（４）観光地域づくりのコンセプト

① コンセプト	歴史的交流都市としてのブランドの進化と郷土愛（シビックプライド）の醸成
② コンセプトの考え方	福岡市は古くから交流都市としてアジアに開かれており、都市の住みやすさや、スタートアップ都市としての活気が注目されるなど、優れたビジネス環境が評価されている。 交流都市としての基盤やビジネス環境を活かし、福岡型ワーケーション、MICE 誘致などに取り組むとともに、福岡独自の歴史・文化等の魅力により国内外における知名度・集客力を強化し、国内及び東アジアを中心とする従来の来訪客層に加え、欧米豪を中心としたモダンラグジュアリー層を呼び込むことで、より質の高い観光へと取組みを進化させる。また、市民に向け、観光への理解促進、担い手づくりなど、地域への愛着を支える取組みを行っていくことで、来訪者に選ばれる魅力を有する持続可能な観光地域づくりを目指す。

様式１

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	**当財団及びパートナーズワーキンググループ（賛助会員等で構成）が、関連DMO、地域経済団体、他業界団体及び市民との協議・意見交換の場を持ち、戦略を共有するとともにDMOとしてのPDCAサイクルを推進する。** ● パートナーズワーキンググループにおいて、賛助会員（パートナーズ）の中でも、より当財団と足並みをそろえて、取り組む強い意志を持つ事業者と協働し、事業計画の策定や進捗管理、評価、改善に取り組む。 ● 賛助会員以外の事業者とは、福岡地域戦略推進協議会及び福岡商工会議所等の地域経済団体や市民向けセミナー等の場を通じた連携強化を図る。 ＜各ステークホルダーとの協議・意見交換のスケジュール＞  ※ 上記以外にも関係団体等と随時協議等を実施 ＜各ステークホルダーとの協議・意見交換を踏まえたPDCAサイクル＞

様式１

観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	**来訪者を対象としたアンケート調査の実施により観光満足度を把握・評価し、関係事業者に共有のうえ満足度向上に向けた取組みに関する意見交換を実施する。それらを踏まえ、パートナーズワーキンググループにおいて事業化に向けた検討・市に提案を行うことで、ソフトおよびハードの両面から、観光客に提供するサービスの維持・向上を図る。** ● 観光客のサービスの質を図る指標としての「満足度」、各事業実施におけるアンケート意見の収集 ● 観光案内ボランティア、ウェルカムサポーターの支援・育成 ● 当財団で高質なサービスのモデルケースを市内事業者等に紹介することなどによりスキルアップを図る 〈参考：アンケート調査（福岡市観光客動態調査）の実施方法〉 ・調査時期：四半期ベース（イベント等の影響を避けるため、調査時期は年度によって随時調整） ・調査地点：交通結節点（７地点）＋観光スポット（10 地点） ・調査項目：性別、年代、居住地、利用交通機関、目的、同行者内訳、観光及び宿泊日数、市内の訪問先及び回数、観光消費額、立ち寄る他観光地、市民が観光客を受け入れることへの意向等 ・調査概要：観光客の実態を把握・分析し、受入体制の構築・強化、観光客に提供するサービスの維持・向上に繋げる
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	**当財団を中心に行政、事業者及び関連 DMO と役割分担をしながら、効率的かつ効果的な情報発信・プロモーションを展開していく。行政は都市ブランディングの推進、当財団は地域全体としての観光に係る情報発信、事業者は各事業者における事業推進に係る情報発信を軸とし、行政及び当財団は新規誘客に向けた客層の開拓、事業者は既存の客層の誘客強化に注力する。** ● 財団 HP、SNS 等による情報発信 ● 福岡の観光ガイド（日英等）を作成、エリアの魅力を紹介するツールとして活用 ● 観光関連の見本市でのプロモーション ● 地域で連携するイベント・おもてなし情報の発信・プロモーション

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組みを定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）*1	目標	600,000	480,000	540,000	600,000	※調整中	※調整中
		(120,000)	(96,000)	(108,000)	(120,000)	※調整中	※調整中
	実績	421,912	619,220	※算出中			
		(32,160)	(233,000)	※算出中			
●延べ宿泊者数（千人）*1	目標	14,000	11,400	12,700	14,000	※調整中	※調整中
		(2,800)	(2,280)	(2,540)	(2,800)	※調整中	※調整中
	実績	9,847	14,880	17,609			
		(437)	(4,264)	(6,331)			
●来訪者満足度（%）	目標	90.0	91.0	92.0	93.0	94.0	95.0
		(—)	(91.0)	(92.0)	(93.0)	(94.0)	(95.0)
	実績	90.8	87.4	89.5			
		(—)	(—)	(91.2)			
●リピーター率（%）	目標	70.0	74.2	78.0	79.0	80.0	81.0
		(—)	(48.0)	(49.0)	(50.0)	(50.0)	(50.0)
	実績	79.9	77.7	78.1			
		(—)	(—)	(37.0)			

※　括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

＊１ 目標値及び実績値ともに暦年の数値を記載

様式１

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

当財団が協力しつつ福岡市が定めた観光・MICE 推進プログラムを踏まえて設定した。KPI として設定する項目ごとの目標値の考え方については次のとおり。なお、2022（令和４）年度については、コロナ禍前の 2019（令和元）年度に策定した観光・MICE 推進プログラムをもとに設定していたため、実績値が目標値を大きく下回っている場合がある。

【設定にあたっての考え方】

※2026(令和８), 2027(令和９)年度の目標値は暫定であり、福岡市の観光・MICE 推進プログラムの改定内容に合わせて見直しを行うもの。

●旅行消費額（年）

福岡市の観光産業における消費喚起力及び地域経済への波及効果を図る指標として設定
観光・MICE 推進プログラムを踏まえ、2025(令和７)年の 600,000 百万円に向けて増加を目指す。
インバウンド客については、コロナ禍前水準を踏まえ、全体の 20%とする。
2026(令和８), 2027(令和９)年度については、福岡市の観光・MICE 推進プログラムの改定内容に合わせて設定する。

●延べ宿泊者数（年）

福岡市の観光資源の磨き上げや滞在環境の向上による長期滞在促進に向けた指標として設定
市民・事業者への影響を十分に勘案しながら、観光客の増加に努めることとし、福岡市内宿泊施設（ホテル・旅館）の客室数（38,535）×稼働率（0.8）×365 日×1 室利用者数（1.3）により 2025(令和７)年に 14,000 千人を目指す。
インバウンド客については、コロナ禍前水準を踏まえ、全体の 20%とする。
2026(令和８), 2027(令和９)年度については、福岡市の観光・MICE 推進プログラムの次期策定に合わせて設定する。

●来訪者満足度（年度）

福岡市の観光資源及び滞在環境に対する来訪者の満足度を図る指標として設定
観光・MICE 推進プログラムにおいては、2025(令和７)年度に 90%を目指すこととしているが、2022(令和４)年度にすでに目標を達成しているため、本計画においては上方修正し、2025(令和７)年度に 93%を目指す。2026(令和８)年度以降についても、同様の伸びを目指す。

●リピーター率（年度）

福岡市の観光資源及び滞在環境に対する来訪者の満足度と、その後の再訪率を図る指標として設定。現状値を踏まえ、2027(令和 9)年度までに 81%を目指す。インバウンド客については、訪日外国人観光客のリピーター率約 60%である点や、今後欧米豪市場を開拓していくことを踏まえ、50%の目標値を据え置く。

様式１

（２）その他の目標

指標項目		2022 （Ｒ４） 年度	2023 （Ｒ５） 年度	2024 （Ｒ６） 年度	2025 （Ｒ７） 年度	2026 （Ｒ８） 年度	2027 （Ｒ９） 年度
●【住民満足度】市民が観光客を受け入れることへの意向（来てほしい割合）（%）	目標	70.0	75.0	77.5	80.0	80.0	80.0
		(―)	(―)	(―)	(―)	(―)	(―)
	実績	72.0	63.9	55.7			
		(―)	(―)	(―)			
● WEB サイトアクセス状況（回）	目標	14,000,000	9,000,000	11,500,000	14,000,000	14,000,000	14,000,000
		(―)	(―)	(―)	(―)	(―)	(―)
	実績	6,666,411	8,015,173	8,343,796			
		(―)	(―)	(―)			
●福岡市を含む九州の２地域以上で宿泊するインバウンド客の割合（%）	目標	―	―	―	(30.0)	(32.5)	(35.0)
	実績	―	―	(27.5)			
●欧米豪からの入込観光客数（万人）＊1	目標	(10.00)	(3.00)	(6.00)	(15.00)	(17.50)	(20.00)
	実績	(0.89)	(8.71)	(12.15)			
●平均泊数（泊）＊1	目標	1.50	1.37	1.43	1.50	1.57	1.64
		(1.70)	(1.65)	(1.68)	(1.70)	(1.73)	(1.76)
	実績	1.31	1.38	1.41			
		(1.62)	(1.50)	(1.59)			
●国際会議開催件数（件）	目標	340	100	200	300	300	300
	実績	33	79	未公表			
●賛助会員数（団体）	目標	635	590	612	590	610	635
	実績	568	540	569			

※　弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

＊1 目標値及び実績値ともに暦年の数値を記載

様式１

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

当財団が協力しつつ福岡市が定めた「観光・MICE 推進プログラム」を踏まえて設定した。KPI として設定する項目ごとの目標値の考え方については次のとおり。なお、2022（令和４）年度については、コロナ禍前の 2019（令和元）年度に策定した観光・MICE 推進プログラムをもとに設定していたため、実績値が目標値を大きく下回っている場合がある。

【設定にあたっての考え方】

※2026(令和８)，2027(令和９)年度の目標値は暫定であり、福岡市の観光・MICE 推進プログラムの改定に合わせて見直しを行うもの。

●【市民満足度】市民が観光客を受け入れることへの意向（来てほしい割合）（年度）

来訪者及び市民双方にとって満足度の高い観光地域づくりを推進するにあたって、観光振興施策に対する市民の理解度・観光客受入れに係る参加意欲を図る指標として設定

観光・MICE 推進プログラムを踏まえ、2025(令和７)年度の 80%に向けて年約３%ずつ増加を目指す。現状目標値との乖離が起きているため、2026(令和８)，2027(令和９)年度については、目標値は据え置きとする。

●WEB サイトアクセス状況（年度）

観光地・MICE 開催地としての福岡市に対する関心の高さを図る指標として設定

観光・MICE 推進プログラムの趣旨及び 2019(令和元）年度（コロナ禍前）実績値を基準に設定した目標を踏襲し、2025(令和７)年度に、14,000,000 件を目指す。

現状目標値との乖離が起きているため、2026(令和８)，2027(令和９)年度については、目標値は据え置きとする。

●福岡市を含む九州の２地域以上で宿泊するインバウンド客の割合（年）

福岡市を拠点とした九州における周遊観光の促進に向けた指標として設定。2024(令和６)年度より調査を開始しており、リピーター率の上昇、欧米豪誘客の強化により九州を周遊する観光客が増えることを想定し、暫定的に目標設定。

●欧米豪からの入込観光客数（年）

国際情勢によらない観光産業の維持振興等、レジリエンスの強化にあたって、欧米豪からの誘客強化に向けた指標として設定。

観光・MICE 推進プログラムの趣旨を踏まえ、目標設定していたが、2024(令和 6)年度にすでに目標を達成しているため、本計画においては上方修正し、2025(令和７)年度に 15 万人を目指す。

2026(令和８)年度以降については、同様の伸びを目指す。

●平均泊数（年）

福岡の観光資源の磨き上げや滞在環境の向上による長期滞在促進に向けた指標として設定。

2025(令和７）年に 1.5 泊を目指し、年約 0.07 泊ずつ増加を目指す。

インバウンド客については、国内観光客よりも泊数が多いため、1.73 泊を目指し、年約 0.03 泊ずつ増加を目指す。

2026(令和８)年度、2027(令和９)年度についても、同様の伸びを目指す。

●国際会議開催件数（年度）

MICE 振興による観光関連産業の活性化に向けた間接的指標として設定。

観光・MICE 推進プログラムの趣旨を踏まえ、2025(令和７)年度に、2019(令和元）年度（コロナ禍前）水準への回復に向けて年 100 件ずつ増加を目指す。2026(令和８)，2027(令和９)年度については、目標値は据え置きとする。

●賛助会員数（年度）

当財団の DMO としての活動の広がり、観光地域づくり活動の展開を示す間接的指標として設定。

観光・MICE 推進プログラムの趣旨及び 2019(令和元）年度（コロナ禍前）実績を基準に設定した目標を踏襲し、2025(令和７)年度に、635 団体を目指すとしていたが、コロナ後の事業見直し等を理由に退会が増加したため、2024(令和６)年度末時点での実績値が目標値と乖離が大きいことから下方修正し、2027(令和９)年度の 635 団体を目指す。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	403,814,939	福岡市負担金	347,927,877 円
		うち宿泊税	103,060,949 円
		賛助会員会費等	36,445,000 円
		収益事業収入	7,661,062 円
		その他	11,781,000 円
2023（Ｒ５）年度	445,545,474	福岡市負担金	380,977,662 円
		うち宿泊税	162,639,482 円
		賛助会員会費等	37,255,000 円
		収益事業収入	11,589,622 円
		その他	15,723,190 円
2024（Ｒ６）年度	599,970,734	福岡市負担金	498,345,523 円
		うち宿泊税	278,265,395 円
		賛助会員会費等	38,165,000 円
		収益事業収入	47,456,129 円
		その他	16,004,082 円
2025（Ｒ７）年度	695,983,000	福岡市負担金	631,219,000 円
		うち宿泊税	472,315,000 円
		賛助会員会費等	40,000,000 円
		収益事業収入	10,694,000 円
		その他	14,070,000 円
2024（Ｒ８）年度	630,972,000	福岡市負担金	560,434,000 円
		うち宿泊税	406,090,000 円
		賛助会員会費等	45,265,000 円
		収益事業収入	12,469,000 円
		その他	12,804,000 円
2027（Ｒ９）年度	632,972,000	福岡市負担金	560,434,000 円
		うち宿泊税	406,090,000 円
		賛助会員会費等	46,265,000 円
		収益事業収入	13,469,000 円
		その他	12,804,000 円

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）	
2022（Ｒ４）年度	398,581,834	事業費	397,518,572 円
		管理費	1,063,262 円
2023（Ｒ５）年度	441,769,169	事業費	440,648,294 円
		管理費	1,120,875 円
2024（Ｒ６）年度	589,377,370	事業費	588,153,050 円
		管理費	1,224,320 円
2025（Ｒ７）年度	698,519,000	事業費	675,230,000 円
		管理費	23,289,000 円

2026（Ｒ８） 年度	630,972,000	事業費 管理費	609,743,000 円 21,229,000 円
2027（Ｒ９） 年度	632,972,000	事業費 管理費	611,743,000 円 21,229,000 円

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

安定的かつ継続的な活動のための市負担金（宿泊税）の確保と、自律的な活動のための賛助会費収入及び収益事業収入等の自主財源の拡大に取り組む。（※運営資金の確保及び自主財源の拡大については、福岡市とも協議している）

- 宿泊税の活用（市負担金）
  福岡市では、福岡市観光振興条例（平成 30 年福岡市条例第 55 号）及び福岡市宿泊税条例（令和元年福岡市条例第 28 号）の規定に基づき、令和２年４月１日から、福岡市が講ずべき観光・MICE 施策の財源として宿泊税を徴収している。この一部を福岡市から当財団への負担金として財源充当することから、今後、福岡市の観光振興の推進により、安定的な宿泊税ひいては負担金の確保につなげ、継続的な活動の原資とする。

- 賛助会費の確保
  当財団では、事業活動のため賛助会員から１口２万円の会費収入を得ている。569 団体・企業（2024(令和６)年度末時点）が賛助会員となっており、2025(令和７)年度予算では 40,000 千円の会費収入を見込んでいる。これを当財団の活動費として財源充当するとともに、今後、賛助会費収入の増に向けて、会員の加入促進を図ることで、自律的な活動の原資とする。

- 収益事業の実施
  当財団では、MICE に係る配布物への広告掲載等、収益事業を実施しており、2019(令和元)年度には 20,068,233 円の収入を得た。その後コロナ禍を経て、2025(令和７)年度予算では 10,694,000 円を見込んでいる。今後も引き続き、収益事業の拡大により、2019(令和元)年度の水準を目指し、自律的な活動の原資とする。

様式１

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

※設定対象区域の都道府県及び市町村が、本法人を当該都道府県・市町村における観光地域づくり法人として認める旨を含む意見を記入すること。
（例）〇〇都道府県、××市町村は、△△法人を当該都道府県及び市町村における（広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･地域ＤＭＯ）として登録したいので△△法人とともに申請します。

福岡市は、持続可能な観光・MICE の推進のためには、地域の関係事業者と一体となった観光地域づくりが重要と考え、取組みを進めています。公益財団法人 福岡観光コンベンションビューローは、高い専門性やノウハウを持ち、地域の関係事業者とも連携しながら取組みを進めているほか、専門人材によるマーケティングに基づいた戦略策定やプロモーションを実施するなど重要な役割を担っています。福岡市の取組みを進めていくため、当該財団の地域 DMO への登録が必要であると考えています。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

当財団がマネジメント・マーケティングの対象区域とする福岡市においては、他の地域連携 DMO（県単位以外）及び地域 DMO との重複はないものの、福岡県観光連盟（県単位の地域連携 DMO）及び九州観光機構（広域連携 DMO）と連携しながら活動を展開していることから記載する。

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】
大型展示会への出展等の連携事業の実施にあたって、定期的な協議を実施し、連携を強化している。

【区域が重複する背景】
当財団は福岡市をマネジメント・マーケティング対象区域とするのに対し、福岡県観光連盟は地域連携 DMO として福岡県全域を対象区域とし、九州観光機構が広域連携 DMO として九州７県全域を対象区域としている。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】
- 当財団：福岡市における持続可能な観光地域づくりに向けた地域連携の強化と地域一体推進体制の構築・推進と、九州のゲートウェイとしての誘客強化と九州各地域への送客機能の強化
- 福岡県観光連盟：福岡県内における持続可能な観光地域づくりに向けた県内市町村の連携強化と、福岡県としてのマネジメント・マーケティングの強化
- 九州観光機構：九州７県における持続可能な観光地域づくりに向けた各県の連携の強化と、九州としてのマネジメント・マーケティングの強化

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】
地域連携 DMO である福岡県観光連盟、広域連携 DMO である九州観光機構が福岡県・九州としてのマネジメント・マーケティングを強化していく中で、当財団が、福岡市における持続可能な観光地域づくりに向けた地域連携の強化と地域一体推進体制の構築・推進はもとより、九州のゲートウェイとしての誘客強化と九州各地域への送客機能を強化することで、各 DMO の取組みをより効率的かつ効果的なものとして展開できるものと考える。
具体的には、以下のような取組みを強化していく方針である。
- 当財団においては、「福岡市を含む九州の２地域以上で宿泊するインバウンド客の割合」を KPI として設定し、福岡市を拠点とした九州周遊の促進に取り組む。
- 福岡市が有する観光コンテンツを九州全体の周遊ルートに組み込み、双方の WEB サイト等の広報媒体を活用し、共同で情報発信に取り組む。
- 展示会等の連携した出展・プロモーション　等

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	廣津　早
担当部署名（役職）	（公財）福岡観光コンベンションビューロー　総務企画課長
郵便番号	810-0041
所在地	福岡市中央区大名２丁目５番 31 号　福岡市交通局庁舎４階
電話番号（直通）	092-736-5050
ＦＡＸ番号	092-433-5050
Ｅ－ｍａｉｌ	fcvb@welcome-fukuoka.or.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	福岡市
担当者氏名	上田　晃
担当部署名（役職）	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課企画調整係長
郵便番号	810-8621
所在地	福岡市中央区天神１丁目８番１号
電話番号（直通）	092-711-4353
ＦＡＸ番号	092-733-5901
Ｅ－ｍａｉｌ	kankosangyo.EPB@city.fukuoka.lg.jp

都道府県･市町村名	
担当者氏名	
担当部署名（役職）	
郵便番号	
所在地	
電話番号（直通）	
ＦＡＸ番号	
Ｅ－ｍａｉｌ	

（登録）【地域DMO】公益財団法人　福岡観光コンベンションビューロー

様式２

記入日：　令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
福岡県福岡市
【設立時期】 1987（S62）年９月１日
【設立経緯】
③区域の観光協会がDMOに移行
【代表者】 谷川　浩道
【マーケティング責任者（CMO）】 梶原　崇弘
【財務責任者（CFO）】 鳥越　未来子
【職員数】 36人（常勤32人（正職員15人・出向等13人・その他5人）、非常勤3人）
【主な収入】
市負担金　498,345,523円（うち宿泊税278,265,395円）
賛助会員会費・収益事業収入等　101,625,211円　（2024（R6）年度決算）
【総支出】
事業費　588,153,050円、一般管理費　1,224,320円　（2024（R6）年度決算）
【連携する主な事業者】
福岡商工会議所、福岡地域戦略推進協議会、福岡市ホテル旅館協会、福岡国際空港株式会社、西日本鉄道株式会社、九州旅客鉄道株式会社、福岡地所株式会社、福岡県観光土産品協会、福岡県商工会連合会ほか賛助会員事業者

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。　＊ 目標値および実績値共に暦年の数値を記載。

指標項目		2022（R４）年度	2023（R５）年度	2024（R６）年度	2025（R７）年度	2026（R８）年度	2027（R９）年度
●旅行消費額（百万円）＊1	目標	600,000 (120,000)	480,000 (96,000)	540,000 (108,000)	600,000 (120,000)	※調整中 ※調整中	※調整中 ※調整中
	実績	421,912 (32,160)	619,220 (233,000)	※算出中 ※算出中			
●延べ宿泊者数（千人）＊1	目標	14,000 (2,800)	11,400 (2,280)	12,700 (2,540)	14,000 (2,800)	※調整中 ※調整中	※調整中 ※調整中
	実績	9,847 (437)	14,880 (4,264)	17,609 (6,331)			
●来訪者満足度（%）	目標	90.0 (—)	91.0 (91.0)	92.0 (92.0)	93.0 (93.0)	94.0 (94.0)	95.0 (95.0)
	実績	90.8 (—)	87.4 (—)	89.5 (91.2)			
●リピーター率（%）	目標	70.0 (—)	74.2 (48.0)	78.0 (49.0)	79.0 (50.0)	80.0 (50.0)	81.0 (50.0)
	実績	79.9 (—)	77.7 (—)	78.1 (37.0)			

戦略

【主なターゲット】
- 平日に福岡を訪れるビジネス客・観光客
- 福岡への直行便がある国からの旅行者（9か国・地域）
- 欧米豪を中心としたモダンラグジュアリー層

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
- ワーケーション及びブレジャー等プラス１泊の推進
- 直行便で結ばれている各都市との連携強化／PR強化による誘客促進
- 欧米豪を中心とした富裕層の誘客強化
- 歴史・文化コンテンツの充実

【観光地域づくりのコンセプト】
歴史的交流都市としてのブランドの進化と
郷土愛（シビックプライド）の醸成

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
- 歴史・文化資源を活かしたまち歩きルート開発及び実施
- 博多どんたく及び祇園山笠等まつりの振興
- 体験コンテンツの充実 等

【受入環境整備】
- 観光案内所の運営・機能強化
- 企業連携強化等ワーケーション受入環境整備
- 教育旅行の受入体制整備
- 観光案内ボランティアの体制強化 等

【マーケティング強化】
- 観光統計データの充実・分析
- デジタル活用の啓発 等

【プロモーション】
- 観光情報サイト「よかなび」、グローバルサイト及びSNS等オフィシャルメディアの運営
- 広域連携DMO等、他DMOとの連携による商談会出展 等

【市民への意識啓発・参画促進】
- 福岡検定の実施による市民のおもてなしの心の醸成
- 市民シンポジウム開催

【事業者連携・人材育成】
- 賛助会員交流会の実施
- 事業者間マッチングの推進
- 事業者向け研修及びボランティア育成研修の実施 等

まち歩き（香椎宮）

北崎エリア ルーラルウォーク

福岡型ワーケーション

九州＆沖縄合同 MICE商談会in Tokyo2022

福岡検定

従事者研修